

ゆりかごだより

2022年3月号 (No.2)

小児と新型コロナウイルス感染症

日本小児科学会によると、2022年1月以降、オミクロン株の流行に伴い、小児の感染者が増加し、少なくとも10歳未満の6.7%が新規に感染したとのこと。デルタ株流行期に比べ重症の占める割合は低くなっていますが、感染者が増えたことで、クルーズ症候群、肺炎、けいれん、嘔吐・脱水などの中等症や重症例が増えているとのこと。また、オミクロン株流行期における患者は発熱の頻度が高く、熱性けいれんの報告数が多いことが確認されています。

小児がコロナウイルスに感染すると、発熱、乾いた咳が聞かれる一方で、鼻閉や鼻汁といった上気道症状は比較的少ないとされています。しかし、成人と同じように、発熱が続き、肺炎になる例も報告されているとのこと。2歳未満の小児では比較的重症となる傾向があり注意が必要です。一部の患者では嘔吐や下痢などの消化器症状も認めるようです。感染していても無症状である可能性も指摘されていますが、小児は正確に症状を伝えられないことに注意しなければなりません。

小児の患者の多くは家庭内で保護者から感染しているようですので、まずは保護者が感染しないこと。ウイルスに汚染されたおもちゃや本などに触れた手で、口や鼻、眼を触ることで感染しますので、手洗い、消毒が大事です。

発熱や咳などコロナ感染を疑う症状が出たときには、かかりつけ医または保健所に電話でご相談いただき指示を仰いでください。

医療機関を受診されるときには、医療機関ごとに取り決め（受診できる時間帯や待機場所）など感染対策を工夫して対応していると思いますので、いきなり受診されるのではなく、事前に電話でご相談ください。行動歴や周囲の方の感染状況など隠さず正確にお伝えください。

長野赤十字病院 病後児保育室ゆりかごでは、病気や怪我の回復期にあるお子さんをお預かりしています。

感染症の流行期などに「ゆりかご便り」として情報を発信してまいります。

手洗い

消毒

基本的な感染対策を続けましょう。



長野赤十字病院
病後児保育室 ゆりかご
TEL 026-226-7753



ご利用についての詳細は長野赤十字病院ホームページをご覧ください。

QRコード または「長野赤十字病院 ゆりかご」で検索